

ハートマーク♥桜の記念植樹による地域貢献 ～新型コロナ禍での取組～

九州局 熊本署 森林整備官 濱田 祥吾
一般職員 大瀬 敦也
一般職員 塩澤 翔

1 課題を取り上げた背景

熊本県山鹿市にある横尾国有林内の伐採跡地が、市街地からハートマーク（写真1）に見えると地元テレビで取り上げられ話題になったことから、このハートマーク形の伐採跡地を活用して、新型コロナ禍で結婚式を挙げられなかったカップルなどに参加してもらい、ハートマークの輪郭部分に植樹してもらえば一生の記念になると思い企画しました。

また、この場所が将来とも末永く山鹿市民や熊本県民から愛される場所になってほしいとの思いから、サクラの記念植樹イベントをバレンタインデーの令和3年2月14日に開催を計画しました。



写真1 ハートマーク遠景

2 現地の概要

- (1) 所在地…熊本県山鹿市横尾国有林 36 こ林小班
- (2) 伐採年度…2018年3月～2019年5月
- (3) 伐採面積…4.78ha（内ハート面積：2.1ha）
- (4) 植栽木…ヒノキ 2,000本/h a

3 取組の経過

- (1) プロジェクトチームの立ち上げ
イベント開催に向けて、令和2年7月7日に署内にプロジェクトチームを立ち上げて、開催日時や植栽計画などの検討を行いました。
- (2) 現地調査
伐採箇所すべてがハートに見えるわけではないので、きれいに見える場所からトランシットを覗き、衛星携帯電話により、植栽位置の指示を出し、杭を立ておおまかなハートの形を作りました。
- (3) 植栽デザイン
現地調査をもとに、サクラの植栽間隔の検討を行い、林縁部分より約8mの3列を基本に植栽することとしました。
- (4) 植栽品種
今回植栽したサクラは、陽光桜という品種です。この品種は春に鮮やかなピンク色の花が咲き、秋には葉が紅く紅葉するのが特徴のサクラです。
- (5) 地元の協力
地元の山鹿市や熊本県鹿本地域振興局に説明をし、理解を求めました。更に、一般財団法人日本森林林業振興会熊本支部に後援を頂き、公益事業として送迎バスの手配や看板・簡易トイレの設置等、経費の一部を負担してもらいました。

4 イベント開催

開催当日は、公募した31組62名のカップルのボランティア、来賓（山鹿市長ほか8名）・局（小島元局長ほか2名）・署関係者を含め総勢90名の参加者のもと開催しました。開会式では、主催者挨拶のほか、植樹する際の留意事項等の説明を行った後、参加者全員で遠くに見えるハートマークをバックに記念撮影を行いました。

開会式後はバスに乗り込み現地に移動しました。参加者全員で、サクラの苗木計200本を植栽し、目印のL杭に記念になるように自らの名前や植栽日と一緒に思い思いの言葉を添えて写真撮影を行いました（写真2）。

イベント後、カップルには熊本森林管理署長名で植樹証明書（写真3）を発行し、記念にしてもらいました。参加者からは、「一生の記念になった」、「素晴らしいイベントだった」、「子供と一緒に見に行きたい」といった多くの喜びの声を聴くことができました。

今回の植樹イベントは、地元のテレビ、新聞、ラジオで紹介されるとともに、林野庁でも過去に例のないブライダル新聞に取り上げられるなど大きな反響を呼び、国有林野事業の取組をPRすることが出来ました。

また、今回の植樹により、大きさ約2.0haと日本でも最大級の巨大なハートマークが出来上がり、山鹿市民や熊本県民に愛される話題スポットとなるばかりでなく、日本全国の恋人たちの新しい観光スポットになることが期待されます。

5 R3年度活動報告

(1) 下刈り作業

サクラとヒノキの成長を促進させるために、6～7月に下刈りを実施しました。今後5年以上は続けていきます。

(2) 成長促進のための施肥

サクラの成長促進のために、窒素・リン酸・カリウムが含まれた大粒の緩効性肥料を1本当たり5粒ずつ、植栽木の根元に埋め込みました。

(3) シカ被害対策

イベント開催の1か月後に現地確認を行ったところ、一部シカによる幹の折損被害や葉の食害が発生していました。そこで当署では、折損部分を切断しトップジンペーストという薬品を塗り、腐れを防止するとともに、幼齡木ネットの設置も併せて行うことで、食害を防止し、被害拡大を防ぎました。早期の対策により、食害を受けたサクラは枯れることなく萌芽により更新が起きています。



写真2 急峻な斜面での植栽

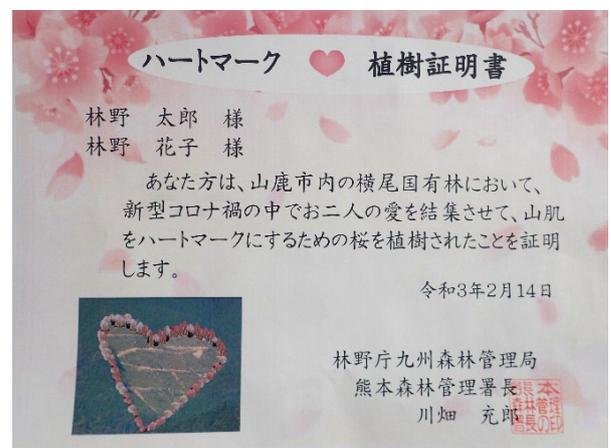


写真3 植樹証明書



写真4 幼齡木ネット設置の様子

食害を防止し、被害拡大を防ぎました。早期の対策により、食害を受けたサクラは枯れることなく萌芽により更新が起きています。

6 今後の展望

約10年後のサクラの開花を楽しみにしているカップルのボランティアやより一層の国有林のPRのため、今後の取組として次の3点を行っていく考えです。

- (1) 定期的な下刈り・つる切などの保育作業の実施
5年以上継続的に行っていくことで、サクラの生育環境を整え、成長を促進させ枯死を防ぐ考えです。
- (2) 森林環境教育の実施の検討
ハートマークの話題性を利用し、地元の方のみならず、多くの方に森林に興味を持ってもらえるように、森林環境教育イベントの検討を行っていく考えです。
- (3) サクラの開花に合わせた花見や写真撮影会の実施
植樹イベントに参加した方に集まっていただき、当時を振り返りながら、満開のサクラの花見や写真撮影を楽しんでもらう考えです。さらに、署のホームページに「このくらい成長しました！」や「サクラの花が咲きました！」といった写真を掲載することで、現地に行かなくても成長過程を確認してもらえるような取り組みを検討しています。

7 まとめ

今回このイベントを開催することで、新型コロナウイルスという暗いニュースが流れる世の中で、明るいニュースを発信し、カップルのボランティアの方をはじめ多くの人にとって一生の思い出になるとともに、国有林野事業を広くアピールすることに繋がりました。

今後も、国民参加型のイベントを企画し、国民の森林（もり）として貢献するとともに、国有林野事業のPRに取り組む考えです。



写真5 開会式での集合写真